

(発言)郵産労神戸支部 成山太志さん

(配送センター廃止計画に対)して要求書を提出、地域への宣伝やビラ配布、そして交渉、その結果配達センターの廃止計画は一時停滞となり、職場を守ることができました。その後1名が入り、11名の支部になりました。彼女らからは、労働組合ってすごい、奇跡みたいだよという喜びの声が寄せられています。神戸西支店の管理者は、未組織で非正規である彼女らをなめてかかっていたようで、あわよくば自主退職に追い込もうと、うそごまかしの説明を繰り返していました。私たち郵産労が関わって、そのことを暴露し、廃止計画を撤回させることができましたが、まともな労働組合がない多くの職場では、このような会社の無法やごまかしがまかり通っているのであろうと思います。あらためて労働組合の存在意義を痛感しました。

郵政で大規模な非正規化が進められていたのは90年代半ばから、財界の21世紀戦略に沿った形でした。同一労働差別待遇という非正規労働者の待遇の改善、そのためにも労働組合に入ってもらおうと、そして増え続ける非正規労働者の組織化が、労働者と財界での対決においても最重要課題であると位置付けてきたつもりです。

現在郵政グループの非正規労働者は全国で21万人、その65%が年収200万円以下、郵政は日本一のワーキングプア製造企業です。国会で亀井大臣が10万人規模の正社員化を名言、8月には登用試験が行われます。しかし受験要件に、週30時間以上働いている者とあり、内務採用者では圧倒的多数が受験すらできない。今後は、この週30時間以上との条件を撤廃させることが大きな課題です。それにしても、10万人規模の正社員化を約束させたことは、私たちの運動の成果だと自負しており、雇用は正社員が当り前の社会への突破口になるものと考えます。6月中旬まで、登用試験は公平に行えとの署名をとりにくんでおります。本日の資料のなかにも署名用紙が入っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

郵政が民営化されて3年の今年、春闘にストライキ行いました。しかし非正規労働者はストの対象外としていました。ところが今年は、50代の女性の非正規組合員が、どうしてもストに参加したいとの申し出があり、参加してもらいました。翌日の集会でこの女性は、「自分の子どもと同年代の若い人が、まじめに働いても給料が10万円そこそこ、結婚もできない、いつも涙の出る思いがしていた。自分にできることがあれば何でもやりたい。ストに参加させてもらってほんとうによかった」と感想を述べ、感動を呼びました。

また最近では、非正規の組合員が、悩みを抱えている職場の非正規労働者に、組合に入って相談したらと声をかけて、組織／／つながる事例が複数生まれています。30代の女性、非正規の組合員は、新入組合員に「郵産労は温かいところ、入ってほんとうによかったね」と実感を込めて話しかけていたそうです。「郵産労に入ってよかった」の声が広がる、ほんとうにうれしいことです。まだまだ模索中ですが、私たちの運動は、非正規の組合員からも積極的に活動に参加してくれる人を多数生んでいます。

そしてこの間、私が教訓として一番大事だと思っていることは、学習を活動の中心にすえること、週1回の執行委員会では必ず、冒頭に20分から40分の読み合わせ学習会を行っています。また比較的若い非正規の組合員に向け、月1回の学習会を開催、最近講師もち回りで、講師に当たった人が自分で本を読んでレジュメを作って発表する。初めて講師をした人の感想では、「すごく緊張しました。あっという間に時間がたち、終わってみたら45分も話していました。難しかったけどいい経験になりました。どんなことをどんな流れで話そうかと毎日考えていました。人に教えるためには、自分で理解する必要があるので、いい勉強になりました。と

でも楽しかったです」と寄せています。学ぶ気風を強めて、知的関心のある人をどんどん成長させられるようにしたいと思います。

最後に、どうしても紹介しておきたいことがあります。来年の一斉地方選挙の神戸市議選、定数5の中央区から、わが支部の非正規の組合員、大前マサヒロ君 30 歳が日本共産党の要請を受けて立候補することになりました。大前君立って、ちょっと。(拍手)神戸の中央区というのは、県庁があり、市役所があり、たくさんの会社が集まり、繁華街があって、県都神戸の中心です。労働者の町です。労働者の代表としての議席、どうしてもバトンタッチしてもらいたいと思います。全国の皆さんからのご支援をお願いをして、私の発言を終わります。どうもありがとうございました。(拍手)